



NIE
教育に
しん
新聞を

4

しょうがく ねんせい む
小学1・2年生向け

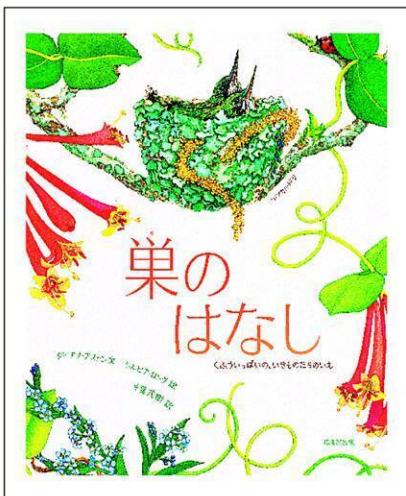
巣のはなし

ダイアナ・アストン文 シルビア・ロング絵 千葉茂樹訳

生き物たちは、どのような材料で、どのような巣をつくると思いますか？ ツカツクリという鳥は、地面に土や枯れ葉を山のように盛り、直径11cm、高さ5cmのとても大きな巣をつくりま

す。一方、マメハチドリの巣は、コケなどをクモの糸でつないでつくられますが、直径4cmくらいと小さく、ティーカップの

ような形をしています。ヒナがだんだん大きくなるのに合わせて、クモの糸が伸びて巣も大きくなります。また、ワニが泥などでつくる巣は、卵を冷やさないように草や葉で覆われ、ほかほかと温かいことが特徴です。生き物たちが、身近にある材料を使い、さまざまな工夫をして居心地の良い巣をつくるのがわかる科学絵本です。



(ほるぷ出版 1650円)

しょうがく ねんせい む
小学3・4年生向け

アマミホシゾラフグ

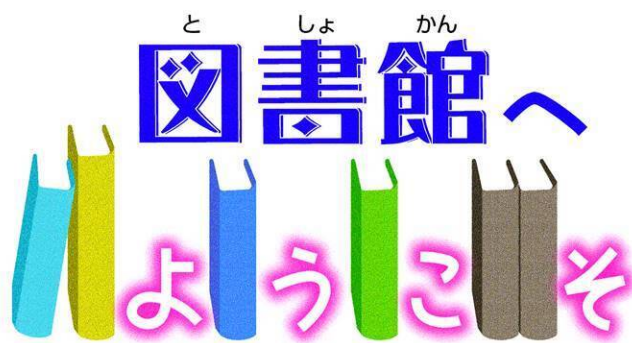
えくち えりふん おおかたようじ しゃしん ともなが え
江口絵理文 大方洋二写真 友永たろ絵

九州と沖縄の間にある奄美大島の海の中では、ある生き物が砂でつくったミステリーサークルを見ることができます。海の中をのぞいてみましょう。たくさんのお魚が泳ぐサンゴ礁をぬけてさらに深い方へ進むと、白い砂地が見えてきました。砂地の上に、直径2cmもある丸い形の不思議な模様があります。真ん中の円を二重の山が囲み、たくさん

の溝がついています。いったい誰がつくったのでしょうか？ 答えは「アマミホシゾラフグ」です。名前のとおり、夜空にきらめく星のような水玉模様が背中にある、世界で初めて見つかった新種の魚です。この魚は、何のために、またどのようにして大きなミステリーサークルをつくったのでしょうか。



(ほるぷ出版 1430円)



砂や土 興味深い使われ方

私たちの身近にある砂や土が、実はいろいろなことに使われているのを知っていますか？ 今回は、人やその他の生き物による、砂や土の興味深い使い方がわかる本を紹介し

ます。(山梨県立図書館 後藤麻友)

—毎月第2週に掲載します—

しょうがく ねんせい む
小学5・6年生向け

日本庭園を楽しむ絵本

おおの やよいさく
大野八生作

日本庭園は、日本で古くからつくられている伝統的な庭園です。自然の風景に思いを巡らせ、植物や砂や石などを使い、さまざまな景色を表現しています。例えば、京都の龍安寺の庭園で有名な「枯山水」は、水を一滴も使うことなく、自然の水の景色を表した庭園のことです。庭に敷き詰めた砂に、まっすぐな線やジグザグの線、渦などの模様を、専用の道具を使って描きます。これは、海の波や川の流

れのように見せる技法です。細長い大きな石や岩を置いて、滝を表現することもあります。日本庭園の種類や歴史、用いられるさまざまな道具や技法について知ることができ、日本庭園の美しさに気付くきっかけとなる一冊です。



(あすなろ書房 1650円)

ちゅうがくせい む
中学生向け

遺跡から調べよう！ ③ 古墳時代

したらひろ みへんちよ
設楽博己編著

3世紀半ばから7世紀頃まで、日本各地で古墳がつけられました。古墳はその時代の権力者の墓で、鏡や耳飾りなどの副葬品と一緒に埋葬されています。鍵穴のような形の前方後円墳は有名で、数百cmほどの巨大なものも多くあります。当時はクレーンなどの重機がなかったため、大きいものは完成まで20年近くかかりました。そのため、埋葬される人が生きていたうちから、設計図をもとにつくり始めます。周りに溝を掘って出土土を積み上げ、土の部分

を石で覆い、粘土でつくった埴輪を並べて仕上げます。古墳が簡単に崩れないよう、違う種類の土を交互に積む工夫も施されました。各地に残る古墳や埋葬遺跡を豊富な写真とともに紹介し



(童心社 4950円)